

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復実技Ⅳ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴15年	担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	患者への説明、助手への指示が適切に行える。 各損傷の視診、触診、ROM、徒手検査等を理解し適切に行える。 各損傷の整復、固定、後療法等を理解し適切に行える。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢における外傷について整復操作・固定法・検査法の実技を術者役、患者役、助手役と分担して学習する。			期末試験 100% (ペーパー試験と実技試験を100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・実技編	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	整復実技⑩ハムストリングス損傷(肉離れ) P360～						
第2週	整復実技⑪大腿四頭筋打撲 P360～						
第3週	整復実技⑫膝関節側副靭帯損傷(内側側副靭帯損傷)1 P376～						
第4週	整復実技⑫膝関節側副靭帯損傷(内側側副靭帯損傷)2 P376～						
第5週	固定⑬内側側副靭帯損傷(Xサポートテープ固定)1 P376～						
第6週	固定⑬内側側副靭帯損傷(Xサポートテープ固定)2 P376～						
第7週	整復実技⑬膝関節十字靭帯損傷(前十字靭帯損傷)1 P366～						
第8週	整復実技⑬膝関節十字靭帯損傷(前十字靭帯損傷)2 P366～						
第9週	整復実技⑭膝関節半月板損傷(内側半月損傷)1 P382～						
第10週	整復実技⑭膝関節半月板損傷(内側半月損傷)2 P382～						
第11週	整復実技⑮下腿三頭筋損傷(腓腹筋損傷)1 P398～						
第12週	整復実技⑯足関節外側靭帯損傷(前距腓靭帯損傷)1 P403～						
第13週	整復実技⑯足関節外側靭帯損傷(前距腓靭帯損傷)2 P403～						
第14週	固定⑲足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)1 P403～						
第15週	固定⑲足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)2 P403～						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・実技編改定第2版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復学VI	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴15年	担当者	小川 勝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法に関する知識・技能を身につける。			評価方法			
授業概要	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法について学習する。総論として骨・関節、神経・筋肉の機能解剖と病態について復習し、各論として診断法、治療法、検査法についても学習する。(※一部、上肢の部分を含む)			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・理論編	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	骨盤・股関節の構造 P351～						
第2週	骨盤骨骨折 P351～						
第3週	股関節脱臼1 P366～						
第4週	股関節脱臼2						
第5週	股関節の軟部組織損傷1 P370～						
第6週	股関節の軟部組織損傷2						
第7週	大腿骨の構造・大腿骨骨折1 P358～						
第8週	大腿骨の構造・大腿骨骨折2						
第9週	大腿骨の構造・大腿骨骨折3						
第10週	大腿部の軟部組織損傷1 P377～						
第11週	大腿部の軟部組織損傷2						
第12週	膝蓋骨の構造・膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼1 P401～						
第13週	膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼2						
第14週	膝関節脱臼 P397～						
第15週	膝関節部の軟部組織損傷1 P401～						
授業外学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・理論編改定第6版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴15年	担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	患者への説明、助手への指示が適切に行える。 各損傷の視診、触診、ROM、徒手検査等を理解し適切に行える。 各損傷の整復、固定、後療法等を理解し適切に行える。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢における外傷について整復操作・固定法・検査法の実技を術者役、患者役、助手役と分担して学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・実技編改定第2版	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	鎖骨定型的骨折1						
第2週	鎖骨定型的骨折2						
第3週	鎖骨骨折〔リング固定又は8字帯、Sayreテープ固定〕1						
第4週	鎖骨骨折〔リング固定又は8字帯、Sayreテープ固定〕2						
第5週	上腕骨外科頸外転型骨折1						
第6週	上腕骨外科頸外転型骨折2						
第7週	上腕骨骨幹部骨折〔ミッデルドルフ三角副子固定〕1						
第8週	上腕骨骨幹部骨折〔ミッデルドルフ三角副子固定〕2						
第9週	コーレス骨折1						
第10週	コーレス骨折2						
第11週	コーレス骨折〔クラーメル副子と局所副子・三角巾固定〕1						
第12週	コーレス骨折〔クラーメル副子と局所副子・三角巾固定〕2						
第13週	コーレス骨折〔クラーメル副子と局所副子・三角巾固定〕3						
第14週	まとめ1						
第15週	まとめ2						
授業外 学習指示等	空き時間を利用して互いに練習する。繰り返しが重要である。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復学Ⅴ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	上肢の骨折の発生機序・好発部位・症状・整復法・固定法・合併症について理解し記述できる。機能解剖を十分に理解する。小テストにて全員60パーセントの得点率を目指す			評価方法			
授業概要	上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療について症例を交えて学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)作成冊子	使用器材	プロジェクター 人体模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	鎖骨骨折：発生機序・好発部位・症状 p220～222鎖骨骨折：整復法・固定法・合併症p223～225						
第2週	肩甲骨骨折 p228～233鎖骨の脱臼p225～228						
第3週	上腕骨骨折：骨頭骨折・解剖頸骨折p233～235上腕骨骨折：外科頸骨折その①p235～237						
第4週	上腕骨骨折：外科頸骨折その②p237 ・実技本上腕骨骨折：結節部骨折・骨端線離開p238～239						
第5週	上腕骨骨幹部骨折256～260整復法p260～262						
第6週	上腕骨遠位部骨折その①機能解剖p263～265						
第7週	上腕骨遠位部骨折その②顆上骨折 p266～271						
第8週	上腕骨遠位部骨折その③外顆骨折・内側上顆骨折p271～274						
第9週	橈骨近位端部骨折 肘頭骨折 p275～279						
第10週	前腕機能解剖 橈骨骨幹部単独骨折発生機序・症状ほか p290～293						
第11週	ガレージ骨折 尺骨単独骨折発生機序・症状ほかp293～294モンテギア骨折 前腕両骨骨幹部骨折 発生機序・症状ほかp295～299						
第12週	手関節機能解剖 橈骨遠位端部骨折分類その① Colls骨折症状ほかp304～309						
第13週	橈骨遠位端部骨折その② Colls骨折整復・固定p309 実技本						
第14週	橈骨遠位端部骨折その③Smith骨折・骨端線理解・辺縁部骨折p310～312						
第15週	手関節軟部組織損傷・手根骨骨折①舟状骨骨折三角骨骨折p313～314						
授業外 学習指示等	毎日の復習と小テストに向けて学習する。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	関係法規 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	法の成り立ちを理解する。柔道整復師法・省令・細則について理解する 柔道整復師の免許・業務・広告制限について理解する。 関連する医療従事者の法規について理解する。			評価方法			
授業概要	プリント冊子を利用し柔道整復師の業務に関係する法律を中心に学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	関係法規	使用器材	プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	講義の流れの概要説明 法の意義・体系 柔道整復師および柔道整復に関する法規 p5 柔道整復師と患者の権利 p5						
第2週	医療過誤とリスクマネジメント 法の名称 プリント～p9・10						
第3週	柔道整復師法とその関連内容総則p11 免許p12						
第4週	免許の申請・名簿						
第5週	免許の取り消し 免許証の書き換え・返納・提出						
第6週	柔道整復師国家試験						
第7週	業務の禁止(法第15条)名称独占と業務独占 業務範囲						
第8週	秘密を守る義務(守秘義務)都道府県知事の指示						
第9週	施術所の届け出 施術所の構造設備等 施術所に対する監督						
第10週	広告 広告の制限						
第11週	罪刑法定主義 【罪刑法定主義】【刑罰不遯及主義】【刑罰の種類】 指定登録機関 指定試験機関						
第12週	医師法・歯科医師法・保健師助産師看護師法						
第13週	診療放射線技師法・臨床検査技師法・理学作業療法士法・視能訓練士法・						
第14週	言語聴覚士法 臨床工学士法・義肢装具士法・救急救命士法・歯科衛生士法 歯科技工士法 薬剤師法						
第15週	前期終了分のまとめ・練習問題						
授業外 学習指示等	プリントを中心に復習する						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	社会保障制度	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	我が国の社会保障制度(年金・健康保険等)について理解する。 療養費申請用紙に記入ができる。 日々の療養費の請求における施術録の記載ができる。			評価方法			
授業概要	教科書とまとめプリントによる授業 社会保障制度の概要と療養費申請について学習する。			(100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	【社会保障とは】社会保障の3つの機能 あるべき社会と今後の社会保障 【社会保障制度とは】公的年金の意義 公的年金の仕組み						
第2週	介護保険の意義と仕組み 社会福祉 公的扶助 公衆衛生の意義と仕組み						
第3週	【医療保険制度とは】医療保険の目的と意義 国民医療費の定義 国民医療費の現状 保険診療の概要(被用者保険)						
第4週	国民健康保険 後期高齢者医療保険 保険診療のしくみ						
第5週	医療保険財政の現状と課題【医療保険制度とは】その2 診療報酬制度						
第6週	【療養費制度の概要】療養費とは 柔道整復療養費【療養費制度の概要】その2 柔道整復療養費の推移						
第7週	療養費の算定 (柔道整復師必携より 1)						
第8週	療養費の算定 (柔道整復師必携より 2)						
第9週	療養費の算定 (柔道整復師必携より 3)						
第10週	療養費の算定 (柔道整復師必携より 4)						
第11週	療養費の算定(教科書より1)						
第12週	療養費の算定(教科書より2)						
第13週	療養費の算定(算定練習)						
第14週	療養費の算定(算定練習)						
第15週	総復習						
授業外 学習指示等	療養費請求については自分で例題をつくりこなしてみる。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復学Ⅶ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	平山 依里	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.上肢・体幹の軟部組織損傷の概念及び症状について理解し、記述も出来る 2.上肢・体幹の軟部組織損傷の診断や治療に関する知識及び技術を習得し、記述もできる			評価方法			
授業概要	上肢・体幹の軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療に関して学習する。			小テスト(3回) 10% 期末試験 90% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	白板、パワーポイント、映写装置				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	頭部・顔面の損傷 頭蓋骨骨折 その1 (P152～154)						
第2週	頭部・顔面の損傷 頭蓋骨骨折 その2 (P155～158)						
第3週	頭部・顔面の骨折 鼻骨・鼻軟骨骨折 眼窩底破裂骨折 (P158～160)						
第4週	頭部・顔面の骨折 頬骨・下顎骨骨折 (P160～163)						
第5週	頭部・顔面の脱臼 顎関節脱臼 その1 (P163～164)						
第6週	頭部・顔面の脱臼 顎関節脱臼 その2 (P165～166)						
第7週	頭部・顔面の軟部組織損傷 頭部・顔面の打撲 (P166～167)						
第8週	頭部・顔面の軟部組織損傷 顎関節症 顎関節捻挫 (P167～171)						
第9週	頸部の損傷 頸椎の解剖と機能 頸椎の骨折 その1 (P171～174)						
第10週	頸部の損傷 頸椎の解剖と機能 頸椎の骨折 その2 (P175～180)						
第11週	頸部の損傷 頸椎の脱臼 (P180～181)						
第12週	頸部の軟部組織損傷 外傷性頸部症候群 (P182～184)						
第13週	頸部の軟部組織損傷 胸郭出口症候群 寝違え (P184～185)						
第14週	頸部の軟部組織損傷 斜頸 頸椎椎間板ヘルニア 頸椎症 後縦靭帯骨化症(P185～186)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習:授業を受ける前に教科書を熟読しておく。復習:3～4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	物理療法機器等の取り扱い	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	平山 依里	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	物理療法の適応や効果、分類、禁忌などに関する知識および技術を習得し、記述出来る			評価方法			
授業概要	物理療法の取り扱い、適応や効果、禁忌などに関する知識および技術を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	エビデンスから身につける物理療法・柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	物理療法とは(P1～21)						
第2週	痛みの定義と分類(P22～42)						
第3週	関節可動域制限(P43～53)						
第4週	温熱療法(P54～69)						
第5週	治療法各論:ホットパック、パラフィン浴、水治療法、超短波療法(P54～69)						
第6週	治療法各論:超短波療法、極超短波療法、超音波療法(P70～131)						
第7週	治療法各論:寒冷療法(P132～142)						
第8週	治療法各論:光線療法(P143～172)						
第9週	治療法各論:電気を用いた治療:TENS、NIMS(P173～234)						
第10週	治療法各論:電気を用いた治療:イオンフォレーシス、バイオフィードバック療法(P235～249)						
第11週	治療法各論:電気を用いた治療:創傷治癒のための電気刺激療法(P250～256)						
第12週	圧迫療法(P257～269)						
第13週	牽引療法(P270～282)						
第14週	振動刺激療法(P28～294)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習:授業を受ける前に教科書を熟読しておく。復習の仕方を指導し自宅学習する習慣を身につける。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	講道館柔道5段保有	担当者	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	相手との稽古などを通して身体や精神を鍛練修養し、自己完成して、礼法を通して相手を尊重する事を学ぶことを目標とする。			評価方法			
授業概要	柔道整復師の根元である柔道の礼法、基本的技術を学ぶことを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道の授業づくり(体育シリーズ)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	嘉納治五郎師範について 武道と柔道について						
第2週	指導者の責任と安全配慮義務						
第3週	柔道における事故要因と発生のメカニズム 事故や怪我を未然に防ぐ為には						
第4週	柔道着の扱い方 柔道に必要な体操とストレッチ						
第5週	礼法(立礼、坐礼)						
第6週	坐位からの後ろ受け身、横受け身 今後、毎回受け身を行う。						
第7週	前受け身、中腰からの受け身						
第8週	姿勢と組み方、進退動作						
第9週	組んでからの前回り受け身、横受け身、後ろ受け身、						
第10週	崩しと体さばき、足を払われての受け身						
第11週	腰に乗せての受け身、固め技の基本動作						
第12週	固め技の防御に必要な基本動作						
第13週	袈裟固め、横四方固め、縦四方固め						
第14週	小内刈り、大内刈り、小外刈り						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業だけではなく、柔道整復師と柔道との繋がりを通して、「道」を追求して欲しい。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1年生で学んだことを復習していき、不足している部分を確認し分からないところがないようにする。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、柔道整復師になるための基礎学力と応用力をつけることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、図解解剖学辞典、配布資料	使用器材	OHP、白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	解剖学総論① (確認プリント・演習問題)						
第2週	解剖学総論② (確認プリント・演習問題)						
第3週	骨格系① 総論 (確認プリント・演習問題)						
第4週	骨格系② 脊柱 (確認プリント・演習問題)						
第5週	骨格系③ 胸郭 (確認プリント・演習問題)						
第6週	骨格系④ 上肢 (確認プリント・演習問題)						
第7週	骨格系⑤ 下肢 (確認プリント・演習問題)						
第8週	骨格系⑥ 頭蓋 (確認プリント・演習問題)						
第9週	筋系① 総論 (確認プリント・演習問題)						
第10週	筋系② 頭部・頸部 (確認プリント・演習問題)						
第11週	筋系③ 胸部・腹部 (確認プリント・演習問題)						
第12週	筋系④ 背部 (確認プリント・演習問題)						
第13週	筋系⑤ 上肢 (確認プリント・演習問題)						
第14週	筋系⑥ 下肢 (確認プリント・演習問題)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1年生の時に使用したノートや参考資料も使いながら、復習するようにして下さい。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	生理学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1年生次に学んだ生理学(生理学の基礎、血液の生理学、体液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学、消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄)の理解をより深め、演習による知識の定着により、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(生理学の基礎、血液の生理学、体液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学、消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学、配布資料	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 生理学の基礎のまとめ、演習						
第2週	第2章 血液の生理学のまとめ演習 A: 血液の役割 B: 血液の組成						
第3週	C: 免疫機能 D: 血液型 E: 血液凝固						
第4週	第12章 体液の生理学のまとめ、演習						
第5週	第3章 循環の生理学のまとめ、演習 A: 心臓の機能 B: 血管系 C: リンパ管系						
第6週	D: 循環の調節 E: 局所循環 F: 脳脊髄液循環						
第7週	第4章 呼吸の生理学のまとめ、演習 A: 呼吸器の機能的構造 B: 換気 C: ガス交換						
第8週	D: 酸素の運搬 E: 二酸化炭素の運搬 F: 呼吸調節のしくみ G: 呼吸の異常 H: 特殊環境下の呼吸 I: 人口呼吸						
第9週	第5章 消化と吸収のまとめ、演習 A: 消化器系の働き B: 消化管の運動とその調節 C: 消化液の分泌機序						
第10週	D: 消化 E: 吸収 F: 消化管ホルモン G: 肝臓と胆道系						
第11週	第6章 栄養と代謝のまとめ、演習						
第12週	第7章 体温とその調節のまとめ、演習						
第13週	第8章 尿の生成と排泄のまとめ、演習 A: 腎の構造と機能 B: 糸球体ろ過 C: 尿細管における再吸収						
第14週	D: 尿細管における分泌 E: 尿の成分 F: 排尿						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	病理学概論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容(細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・免疫異常・アレルギー・腫瘍・先天性異常・病因)の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。 			評価方法			
授業概要	柔道整復師として必要な病理学の基礎知識(細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・免疫異常・アレルギー・腫瘍・先天性異常・病因)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	病理学概論 配布資料	使用器材	パソコン 液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	第1章. 病理学とは 第2章. 疾病の一般						
第2週	第1章. 病理学とは 第2章. 疾病の一般 まとめ・演習						
第3週	第3章. 細胞傷害(1)(A細胞傷害の定義、B萎縮、C変性)						
第4週	第3章. 細胞傷害(2)(D代謝障害と疾病、E壊死、死)						
第5週	第3章. 細胞傷害 まとめ・演習						
第6週	第4章. 循環障害(1)(A血液の循環障害(血栓症まで))						
第7週	第4章. 循環障害(1) まとめ・演習						
第8週	第4章. 循環障害(2)(A血液の循環障害(塞栓症から)、 Bリンパ液の循環障害、C脱水症、D高血圧症)						
第9週	第4章. 循環障害(2) まとめ・演習						
第10週	第5章. 進行性病変						
第11週	第5章. 進行性病変 まとめ・演習						
第12週	第6章. 炎症(A炎症の一般、B炎症の分類)						
第13週	第6章. 炎症 まとめ・演習						
第14週	第7章. 免疫異常・アレルギー(1)(A免疫の仕組み、B免疫不全)						
第15週	第1章～第6章 まとめ						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	一般臨床医学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当者	待鳥 浩信	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	柔道整復師は患者を診察し、「施術所で治療するのか」、「医療機関への受診勧奨をするのか」の判断を常に求められる。このため、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を身につける。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を身につける。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床医学・配布資料	使用器材	PC(PCプロジェクター)				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション・診察概論						
第2週	診察各論(医療面接・視診)						
第3週	診察各論(打診・聴診)						
第4週	診察各論(触診)						
第5週	生命徴候						
第6週	感覚検査・反射検査						
第7週	代表的な臨床症状:発熱・出血傾向						
第8週	代表的な臨床症状::リンパ節腫脹・意識障害						
第9週	代表的な臨床症状:チアノーゼ・関節痛						
第10週	代表的な臨床症状:浮腫・肥満・やせ、臨床検査法						
第11週	呼吸器 (総論と疾患)①						
第12週	呼吸器 (総論と疾患)②						
第13週	代謝①						
第14週	代謝②						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	運動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・診療所勤務歴12年	担当者	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 運動器の構造について説明することができる。 2 正常な身体運動の機能を理解することができる。 3 疾病等による異常な運動を述べるることができる。			評価方法			
授業概要	人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。とくに、骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	斎藤宏・鴨下博:運動学、医歯薬出版	使用器材	配布資料、視聴覚教材等				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	運動学の目的、運動の表し方 (P1~8)						
第2週	身体運動と力学 (P9~22)						
第3週	運動器の構造と機能 (P23~31)						
第4週	運動器の構造と機能 (P32~40)						
第5週	神経の構造と機能 (P41~50)						
第6週	運動感覚 (P51~56)						
第7週	中間まとめ						
第8週	反射と随意運動 (P57~64)						
第9週	反射と随意運動 (P65~68)						
第10週	四肢と体幹の運動(肩甲帯) (P69~77)						
第11週	四肢と体幹の運動(肩関節の運動) (P78~83)						
第12週	四肢と体幹の運動(肩関節の運動) (P84~91)						
第13週	四肢と体幹の運動(肘関節と前腕の運動) (P92~101)						
第14週	四肢と体幹の運動(手関節と手の運動) (P102~113)						
第15週	総合まとめ						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	臨床実習	授業時期	前期	授業時数	45
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験	担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学ぶ。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ。			評価方法			
授業概要	臨床実習にて医の倫理、態度など柔道整復師としてのあり方や急性症状に対する施術の基礎を身につける。社会保障の仕組みを理解し、受領委任や償還払いの違いや柔道整復師法、健康保険取り扱いに関する関連規定を学ぶ。また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。			実習時評価25% レポート25% 実習課題(カルテ・デイリーノート・症例報告)50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理						
第2週							
第3週							
第4週							
第5週							
第6週							
授業外学習指示等	基本的な知識や技術は、自分で繰り返し反復練習すること						